

とあるお屋敷の
地下室。

ふあ…

あれ？
俺いつの間に
寝てた…？

つーか
ここどこだ…？

うわっ！
なんだこれ！
動けねえ！

なんで俺
縛られてんだ！

ギ
チ

洋太様、お静かに。
今からあなたの
置かれてる状況を
説明します。

コイツ…確か
メイドの凛…！
何考えてるか
わかんねえやつだ！

んぐっ！？

スッ

ここはお屋敷の
地下室です。
この部屋が存在は
メイドの者しか
知りません。

洋太様には
当面この部屋で
監禁生活を送って
いただきます。

地下室…？
この家にずっと
住んでるけど
そんなの全然
聞いてねーぞ！

…は？は？
この女は突然
何言ってるんだ？

つーか全然説明に
なってるねーし

？

？

？



ああ、申し訳
ございません、洋太様。
うっかりおならを
してしまいました。

口を塞いでいますので
鼻で呼吸してもらおうしか
ありませんね。



そんな臭いですか？
死んでしまいたいですから
我慢してもらおうしか
ありませんね。



ぶぼっ



メイドの私に
こんなことされて
さぞ屈辱でしょう。
ですがこれは
私にとつての
復讐なのです。

あなたはこの数年間
メイドの私に毎日
陰湿な嫌がらせや
暴力をされてきました。

メイドの立場上
抵抗できませんでしたが
あなたに対する怒りは
確実に私の中に積もって
いきました。

そして私の
怒りはとうに限界を
超えました。
これから長い年月を
かけてあなたに
復讐してまいります。

ちなみに
旦那様と奥様は
海外出張で数年
は帰ってこないの
で安心して下さい。







お尻の穴から
直接嗅ぐおならの
匂いはいかがですか？

散財虐げてきた
メイドにおならを
嗅がされてさぞ
屈辱でしょうね。



おや？
どうやら気絶された
ようです。ね。

ちなみに
あなたに恨みを持た
ては
ありませんので。